

つながりが育てる みの〜れのか



四季文化館企画実行委員会委員

たむらみほこ

田村美穂子さん

みの〜れと共に生活するスタイル

Minole Life
のすすめ

No.222

大学時代、憧れだったデイズニールランドでキャストとして勤務。そこで培われた「おもてなしの心」が現在の活動の根幹となっています。小美玉市小川地区でクリーニング業を経営する、四季文化館企画実行委員会委員の田村美穂子さんにお話を伺いました。

地域がつなぐ みの〜れの輪

小川地区で生まれ育った

田村さん。小学4年生から高校までバスケットボールに打ち込む日々を過ごし、仲間と力を合わせる大切さを学びました。高校時代には飲食店でアルバイト。料理を運んだ後は手ぶらで戻らない。客席全体を見渡す。周囲に小さな気配りを重ねる習慣が身についたといいます。大学時代はデイズニールランドでアトラクションキャストとして勤務。「安全を第一に考えて行動すること」「状況に応じて臨機応変に動くこと」を学びました。「そこで身についた『おもてなしの心』は、今の活動にもつながっています」と振り返ります。

現在は家業のクリーニング会社を継承。経営者として忙しい日々を送りながら、

茨城空港の利用促進、小美玉市観光協会、商工会女性部、茨城観光マイスターS級など幅広く地域活動にも関わっています。

田村さんが、みの〜れと関わるきっかけとなったのは、沖縄県の中学・高校生ミュージカル「肝高の阿麻和利」でした。沖縄からみの〜れにやってきた中高生たちを支える多くの市民の姿を目の当たりにし、「こんなに地域の人が関わっている施設なんだ」と驚いたと言います。

四季文化館企画実行委員会委員としてみの〜れの運営や事業に関わる中で強く感じたのは、人と人とのつながりの力。舞台をつくる人、企画を考える人、それを支える人。さまざまな立場の人たちがチームとなり、横のつながりを広げながら活動している姿は、小美玉市のまちづくりそのもの、と田村さんは語ります。

住民自らが企画を提案し、事業の選定や採択にも関わる仕組みも、みの〜れならではの特徴です。「みの〜れには、何かに向かって人が集まる力があると思います」と田村さん。訪れた人がそこで出会い、何かを得て、また次の活動へとつないでいく。そんな循環が生まれていると感じています。

「私にとってみの〜れは、ゼ口からイチを一緒に生み出す場所です」。演劇ファシリーターMyuの学生たちが小美玉コンシェルジュとして観光分野でも活躍しているように、文化活動と地域の魅力発信が自然につながる場所でもあります。

みの〜れで出会い、生み出し、その経験がまた次の活動へとつながっていく。人のつながりの中から生まれる力こそが、みの〜れの大きな魅力なのかもしれません。

(藤田佐知子)